# 思い遣りがあり行動力のある人々が、世界を変えられる(11/26)

## 「管野鞠子・没3年追悼上映会」を観賞して

「管野鞠子・没3年追悼上映会」に行ってきた。
40数年前から日本のボランティア活動の先駆者である管野鞠子さんについては、以前に当HPに記載した(「雑学BN」の随想等関係(Ⅲ)P、2004.12.23.「車いすマーク貼付全国第一号は仙台三越店をご存知？」:参照)ことがある。

上映映画は、まだ福祉という言葉もない明治時代、貧困、天災、飢饉、戦争等で家族を失い孤児となった3,000人の子どもを、全国から引き取り、教育、職業指導まで世話する施設の創設者「石井十次の生涯」を描いた松平健主演の「石井とうさん　ありがとう」で、平成17年度児童福祉文化賞を受賞した約2時間の作品であった。

上映会の主催は、長年ボランティア活動に取り組んでいるグループで、このグループのアドバイサーであった管野鞠子さんを偲んで、彼女の出身地で、先駆的な彼女のボランティア活動の志と、石井十次氏の日本の福祉の先駆的な志とをダブらせての企画だったようである。
それにしても、先駆者たちは一人から行動を起こしたというのに、今、福祉に携わっていながらも、「そう云われても、この社会は……」と直ぐに云う人が多いのはどうしてだろうか。

生前の彼女と親交があり、また、授業でも彼女のボランティアの意義を引用して語りかける自分としては、改めて先輩の志に触れ、福祉関係の原点を再認識させられるひと時であった。

石井十次氏は、「親のない孤児よりも　もっと不幸なのは　心の迷い子精神の孤児なのです。」と述べているが、今のいじめ問題にもあるように、いつの時代も子どもたちの「心の居場所」がキーワードであると、つくづく感じた。

先輩たちの足下にも及ぶべくもないが、このキーワードを観点として、これからも福祉問題のみに拘わらず、人間存在の問題、そして、ライフワークであるコミュニケーション(人間関係)のあり方を探求して行きたいと改めて思った。

「思い遣りがあり、行動力のある人々は、たとえ少人数でも世界を変えられる。それを決して疑ってはなりません。実際、それだけがこれまで世界を変えてきたのですから。(マーガレット・ミード:人類学者)」の言葉が、納得できる上映会であった。

追伸:下欄の「石井十次氏紹介HP」、「映画紹介HP」から、リンクしていますので、ご覧下さい。

- 「雑学BN」
- 「雑学・フォトアルバム」